

NT43 Linux 資料 01 インストール : VMware(4 月 24 日改訂版)

# インストール

## 〔1〕 前準備 : シミュレーションソフトのインストール作業

(1) 担任の先生から連絡を受けていると思いますが、以下のデータをダウンロードしておくこと。

- ・ CentOS-Stream-9-x86\_64.iso ←Linux の OS(CentOS)データ
- ・ VMware-player-full-17.0.0.exe ←Window 用シミュレーションソフト

(2) シミュレーションソフトのインストール

まず、VMware-player をインストールしていない方は先ずインストールしてください。

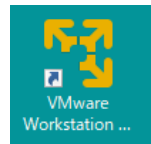
(2) C ドライブ直下に「VMware」という名前のフォルダを作成

※CentOS-Stream-9-x86\_64.iso も移動しておく方が便利かも

※名前は何でも可。C ドライブの容量が少ない人は他のドライブ(D や E 等)でも構いません

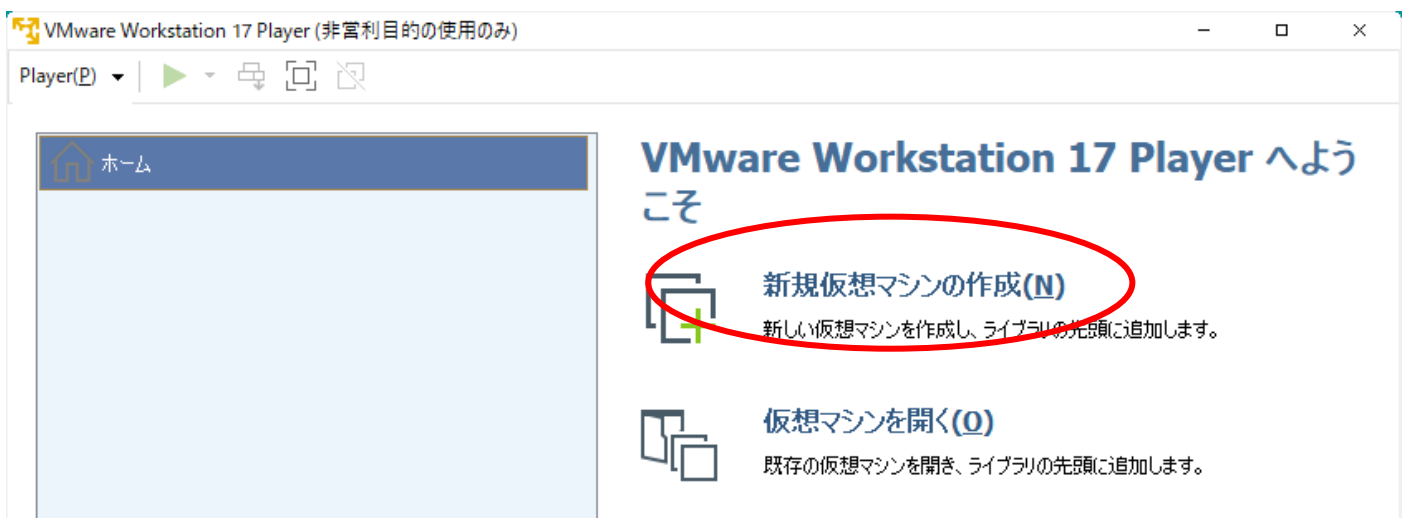
## 〔2〕 Linux(CentOS9)のインストール作業

(1) デスクトップ上の VMwarePlayer のショートカットアイコンをクリック



※起動時にラセンスの画面が出たら 「非営利目的で～」 を選択

(2) 「新規仮想マシンの作成」を選択



新しい仮想マシンウィザード

**新規仮想マシン作成ウィザードへようこそ**  
仮想マシンには、物理コンピュータと同様に OS が必要です。ゲスト OS をどのようにインストールしますか。

インストール元:

☐ インストーラ ディスク(D):  
使用可能なドライブがありません

☐ インストーラ ディスク イメージ ファイル(M) (iso):  
C:\VM\WindowsServer2019.iso 参照(R)...

☒ **後で OS をインストール(S)**  
仮想マシンは、空のハードディスクを 1 つ持つように作成されます。

ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

※ [後で OS をインストール]を選択 ←絶対です！！

新しい仮想マシンウィザード

**ゲスト OS の選択**  
この仮想マシンにどの OS をインストールしますか。

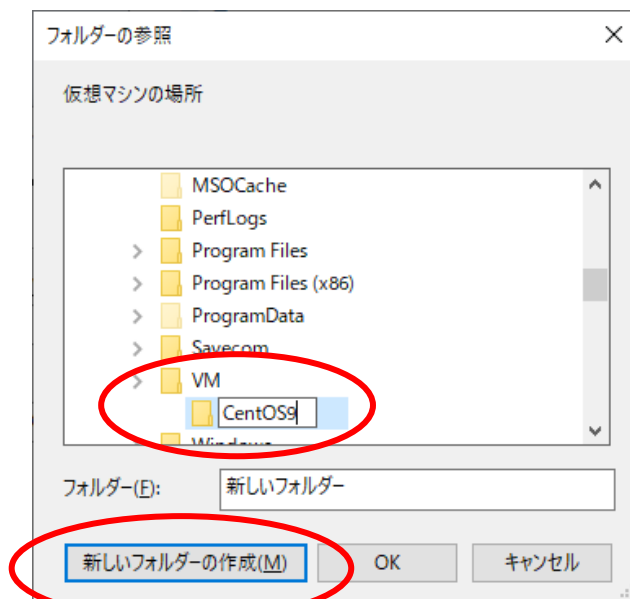
ゲスト OS

☐ Microsoft Windows(W)  
☒ **Linux(L)**  
☐ その他(O)

バージョン(V)  
CentOS 8 (64 ビット)

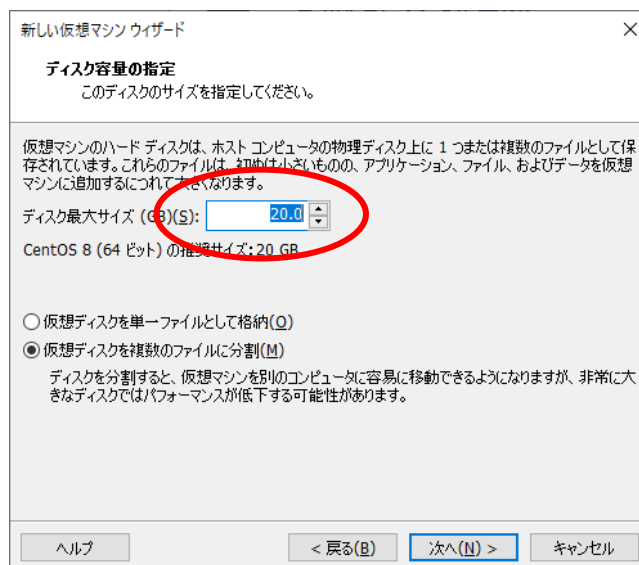
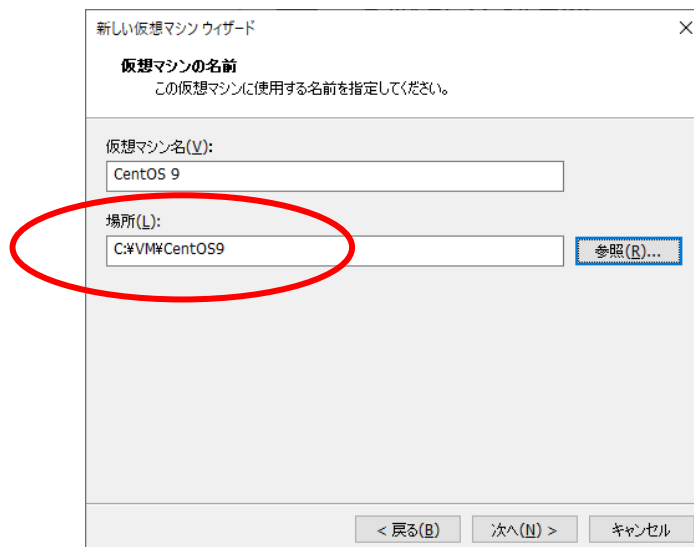
ヘルプ < 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

※[CentOS8 64 ビット]を選択 ←9が無いので

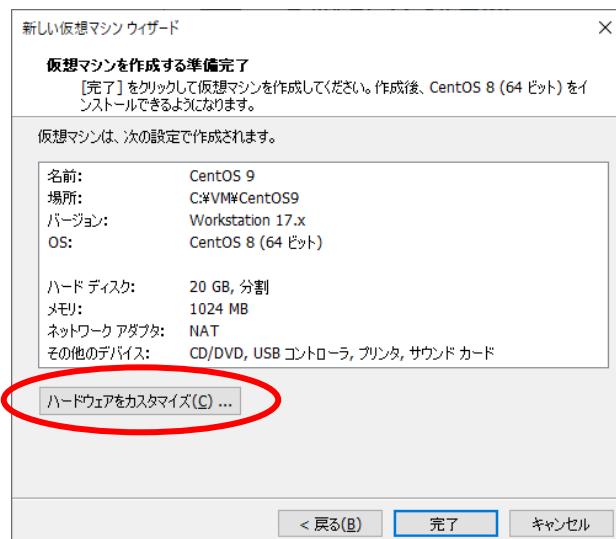


※[仮想マシン名]は何でも可

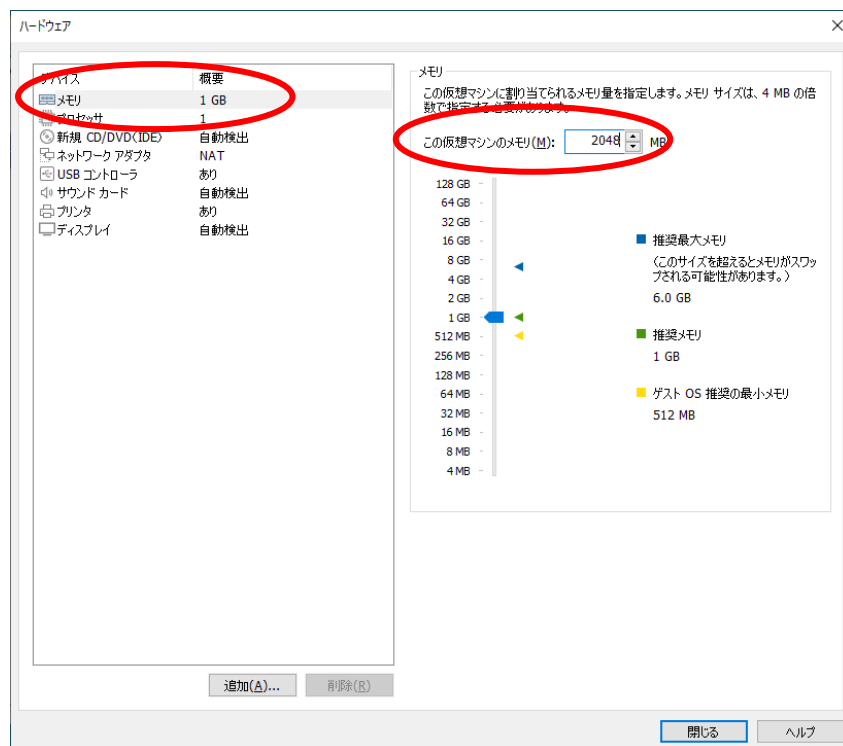
※[参照]を選択してインストール先を C ドライブ直下の [VM] → **[CentOS9]**を新規作成



※最大サイズを大きくしても良いが、その分時間が掛かるので**今回は 20GB**で

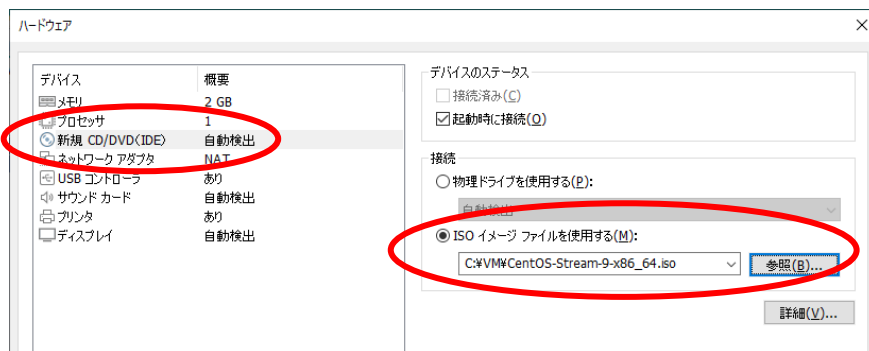


※[ハードウェアをカスタマイズ]を選択

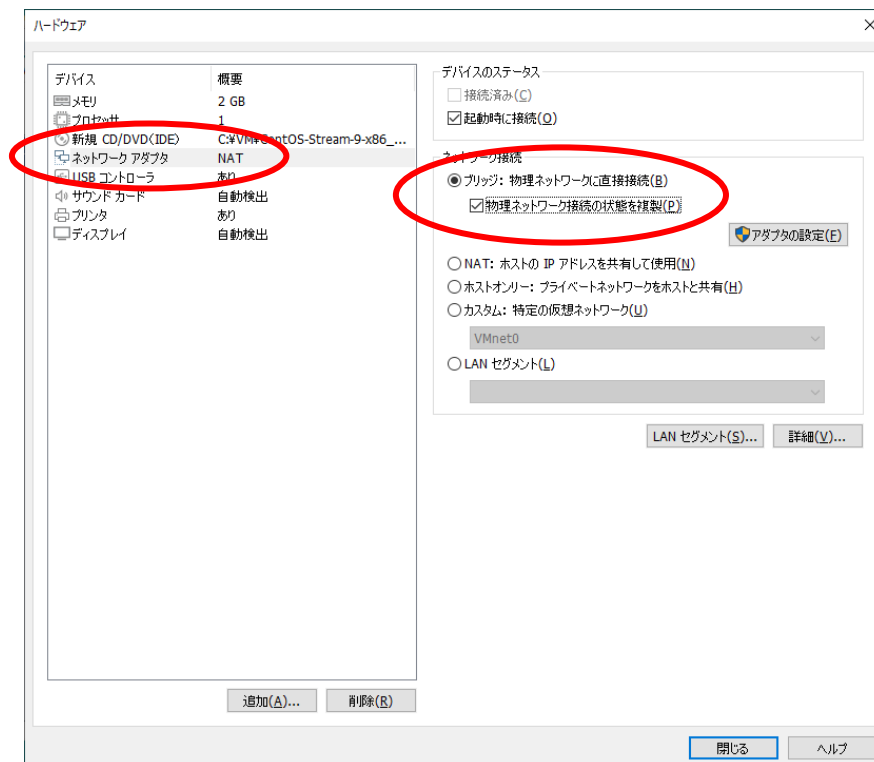


※[メモリ] → [この仮想マシンのメモリ] → [2048MB]

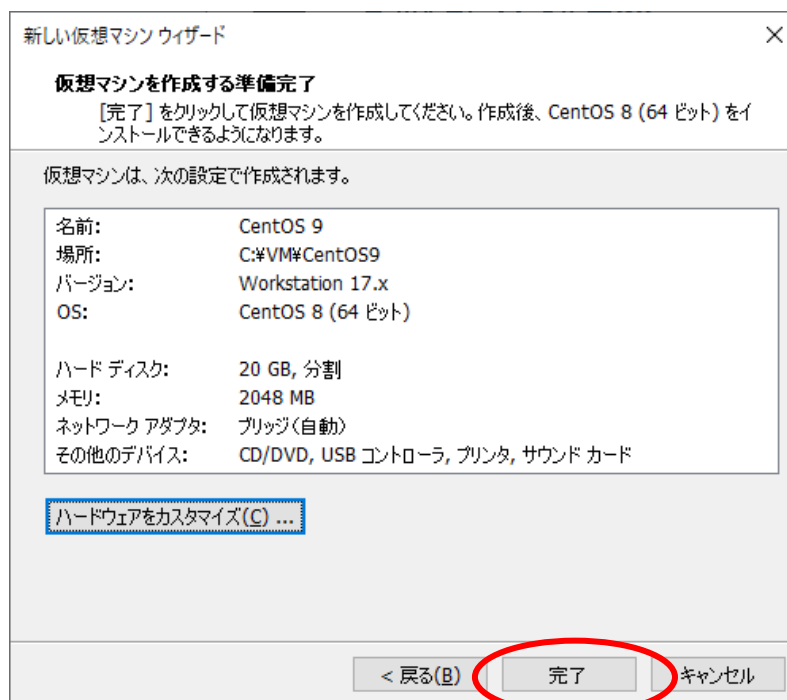
※仮想マシン(Linux)に割り当てる実メモリ。ノート PC の実メモリを使いますから注意！



※[新規 CD/DVD] → C ドライブに移動した[CentOS-Stream-9-x86\_64.iso]を指定 ←★重要



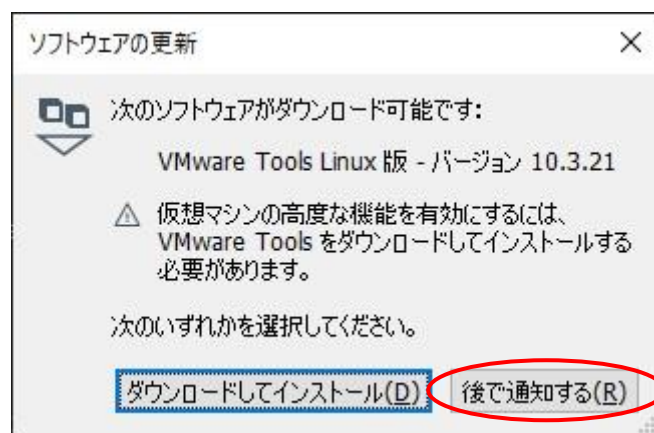
※[ネットワークアダプタ] → [ブリッジ] → [物理ネットワーク接続～] もチェック ←★重要



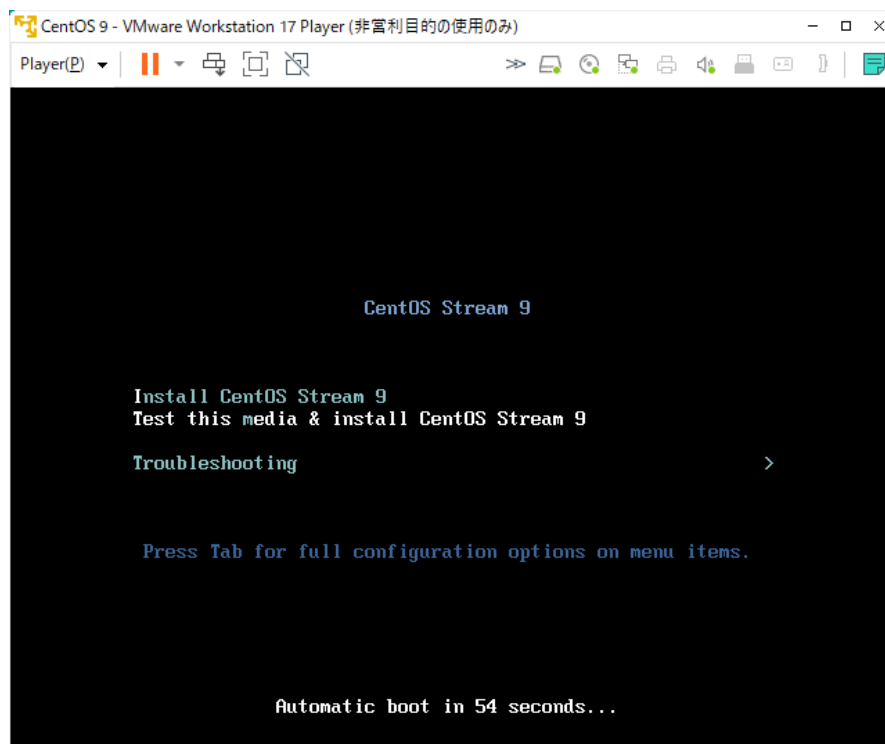
※[完了]



※[仮想マシンの再生]



※途中で上記のメッセージが出たら「後で通知する」を選択 ←出るタイミングは色々



※インストール画面の始まり！



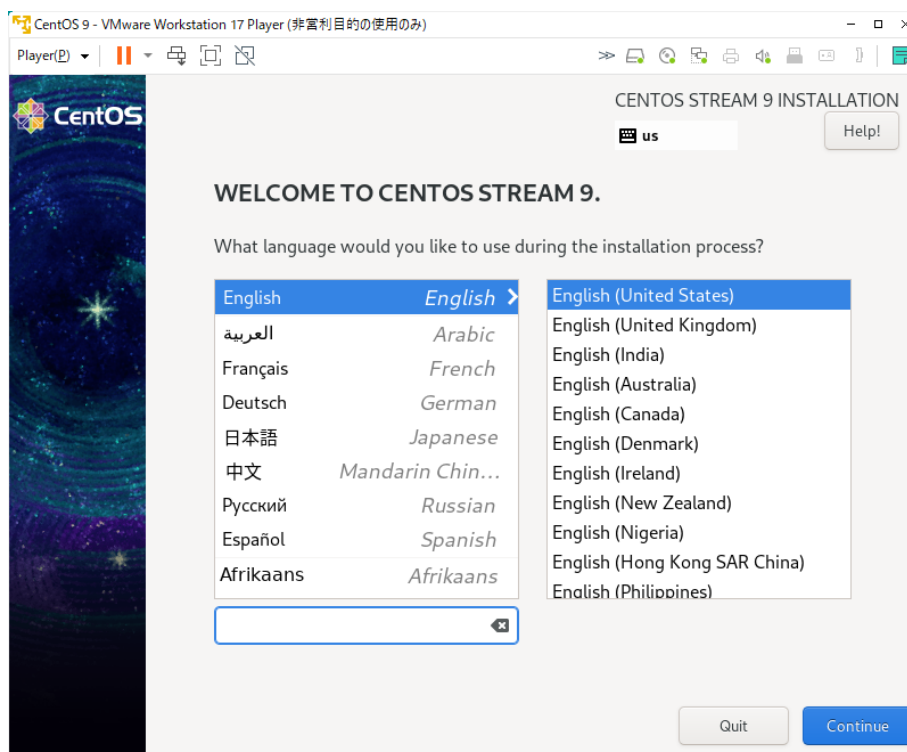
※機種によってはここで結構時間が掛かります。

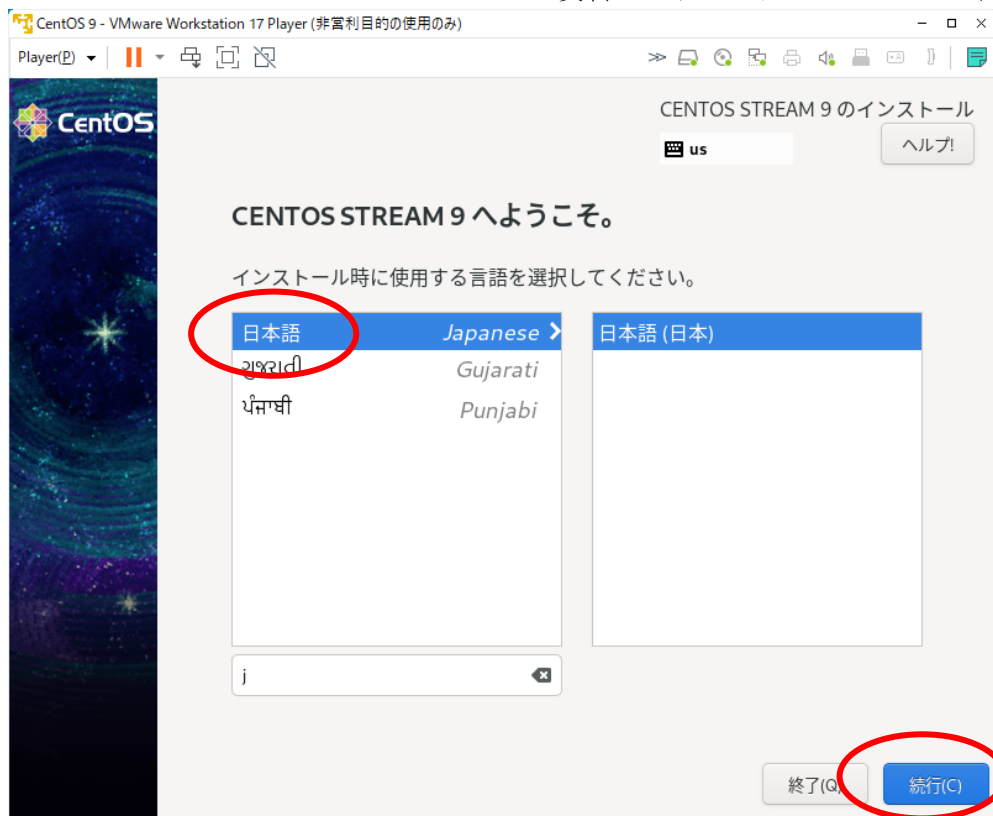
```

[ OK ] Started Show Plymouth Boot Screen.
[ OK ] Started Forward Password R...s to Plymouth Directory Watch.
[ OK ] Reached target Local Encrypted Volumes.
[ OK ] Reached target Path Units.
[ OK ] Started cancel waiting for multipath siblings of nme0n1.
[ OK ] Finished Wait for udev To Complete Device Initialization.
Starting Device-Mapper Multipath Device Controller...
[ OK ] Started Device-Mapper Multipath Device Controller.
[ OK ] Reached target Preparation for Local File Systems.
[ OK ] Reached target Local File Systems.
[ OK ] Reached target System Initialization.
[ OK ] Reached target Basic System.
/dev/sr0: 4443477a02afe55e6c61209b0431aa78
Fragment sums: 3e94f4778ef3ebef2781233cf4d1e753937def8d87e6588b72773f6d5528
Fragment count: 20
Supported ISO: yes
Press [Esc] to abort check.
Checking: 003.9%_

```

※[Esc キー]でスキップ





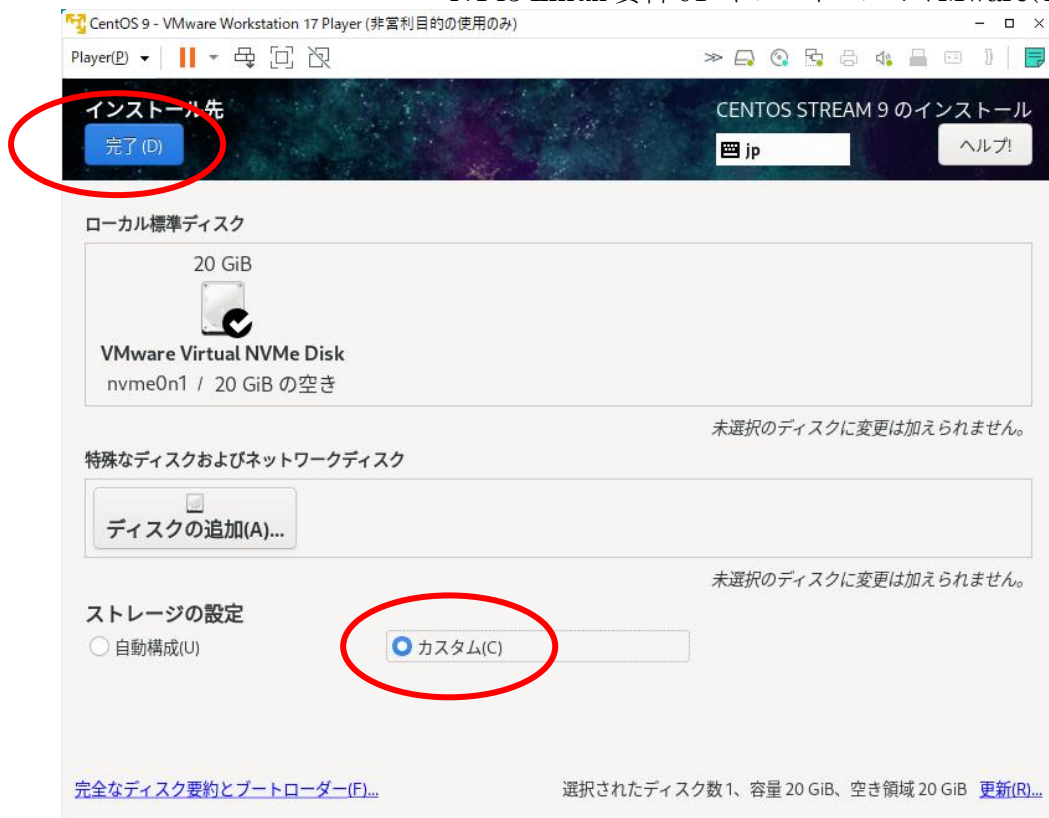
※[日本語] を選択



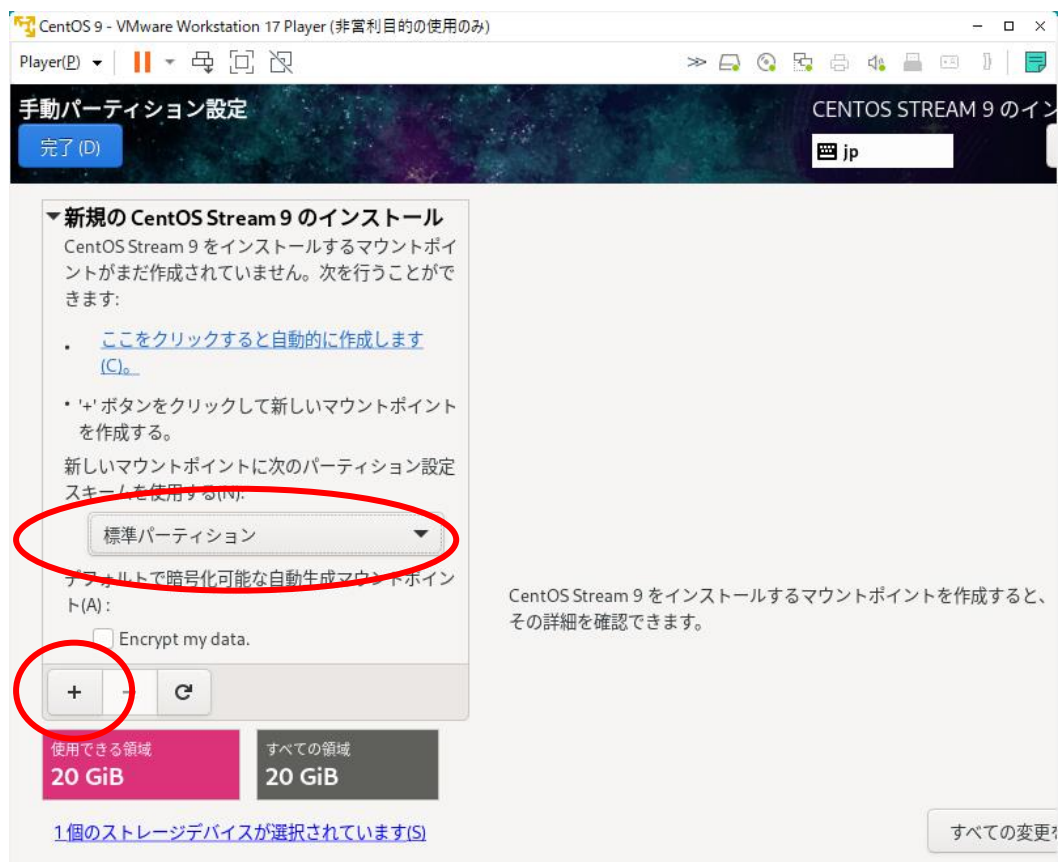
※[インストール先]を選択

←重要





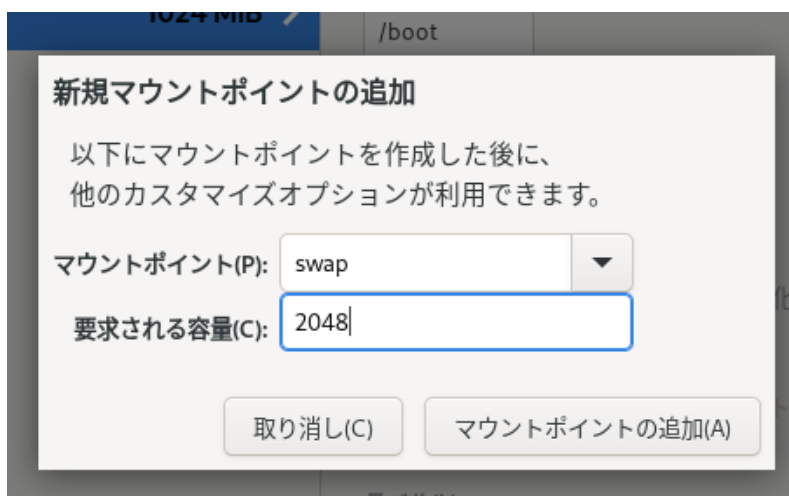
※[カスタム] → [完了]



※スキームの設定を → [標準パーティション]に変更 → 下の[+ボタン]クリック



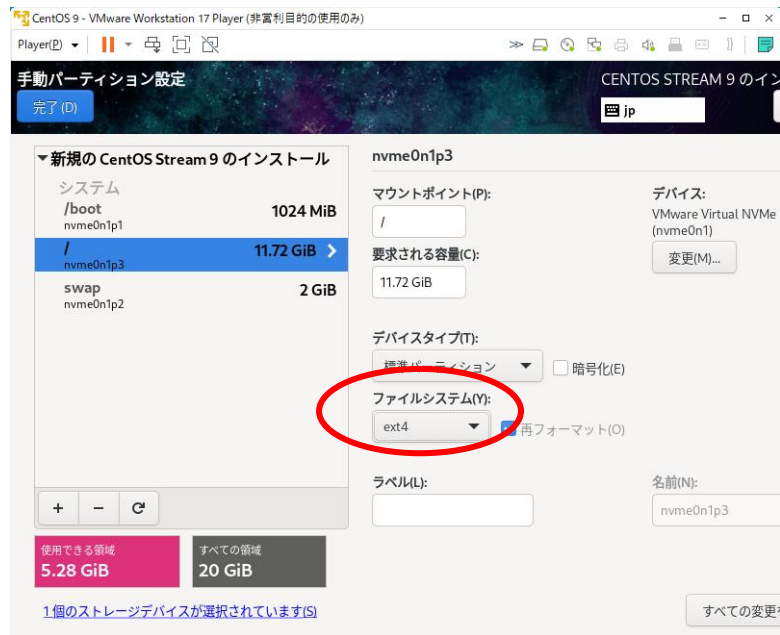
※[マウントポイント] → [/boot] を選択 → **[1024]** → [マウントポイントの追加]



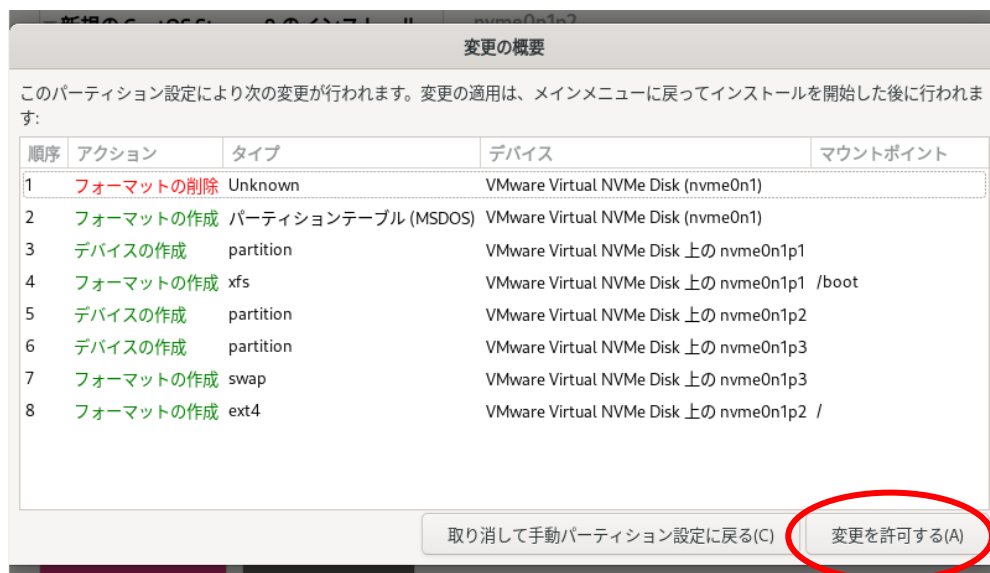
※[マウントポイント] → [swap] を選択 → **[2048]** → [マウントポイントの追加]



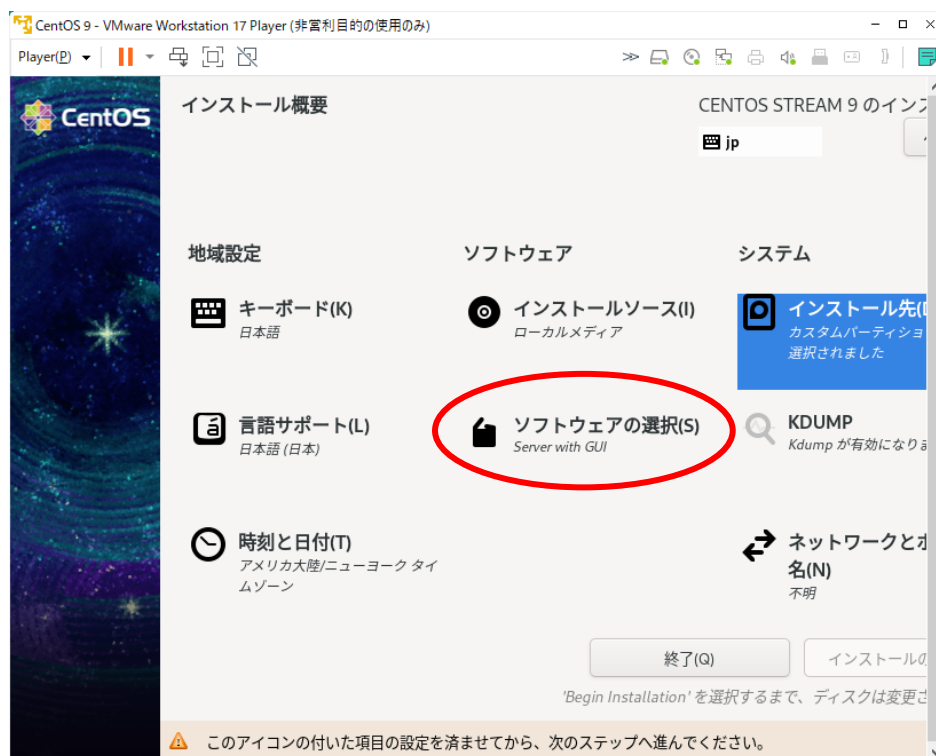
※[マウントポイント] → [ / ] を選択 → **[12000]** → [マウントポイントの追加]



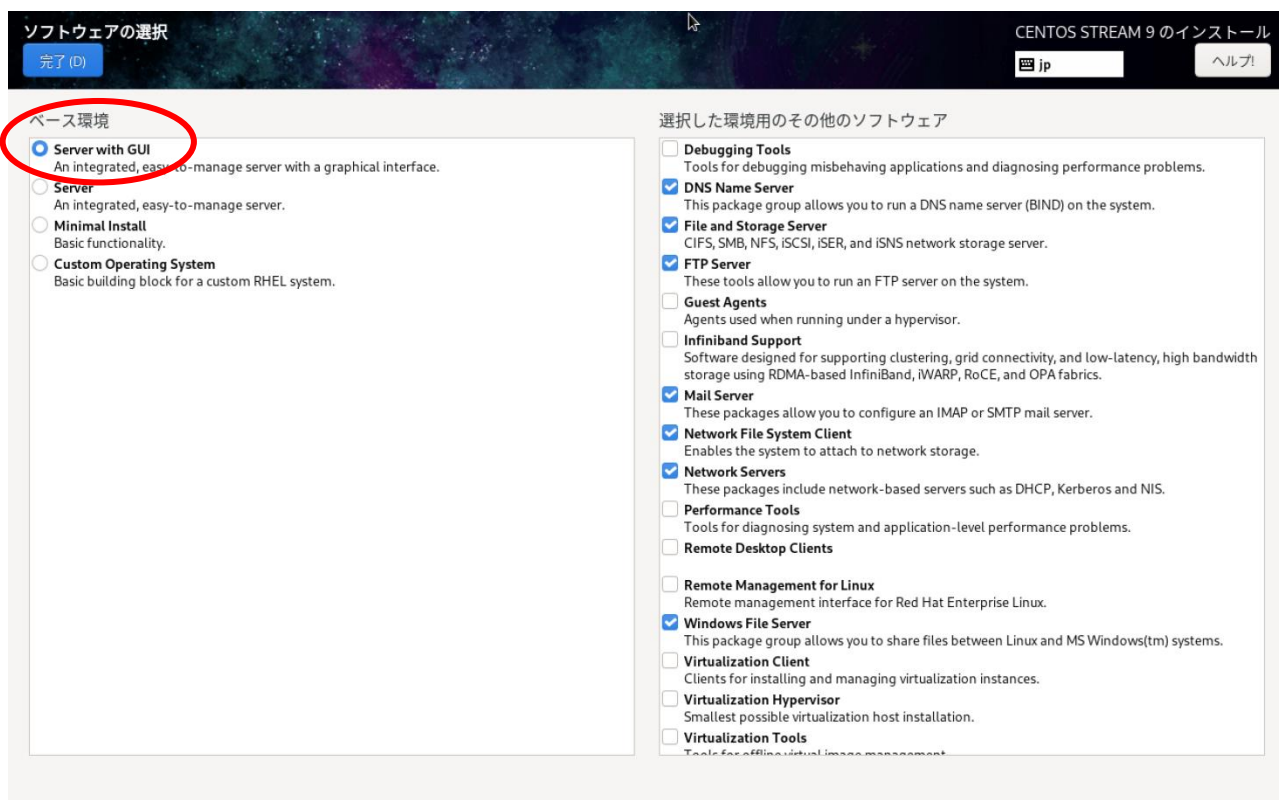
※ファイルシステムを → **[ext4]**に変更 → [完了]



※[変更を許可する]



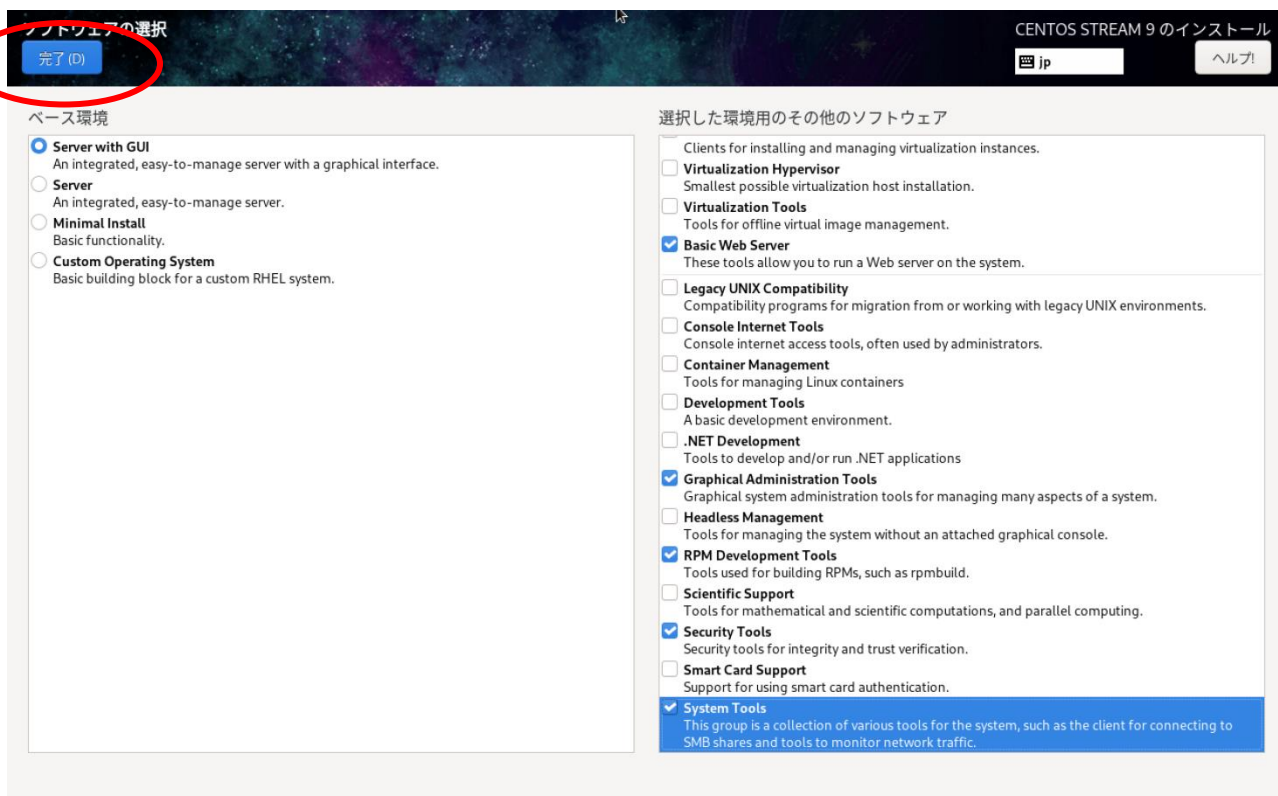
※[ソフトウェアの選択]を選択



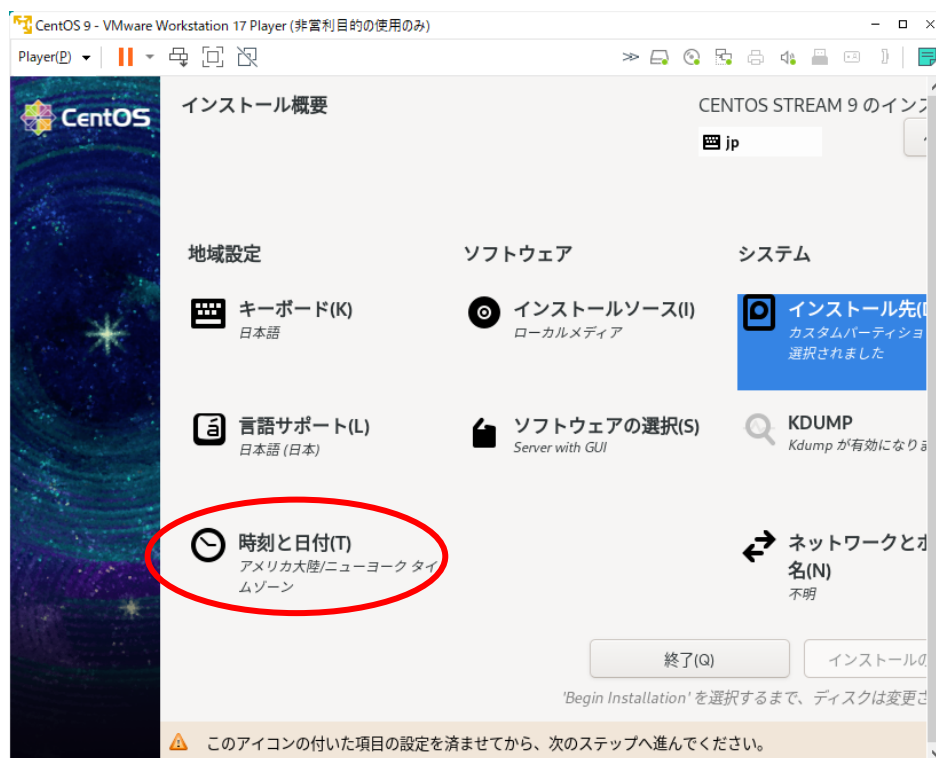
※[Server with GUI]を選択

DNS～、File～、FTP～、Mail～、Network File～、Network Servers、Windows～、  
Basic～、Grapical～、RPM～、Security～、System～

を選択

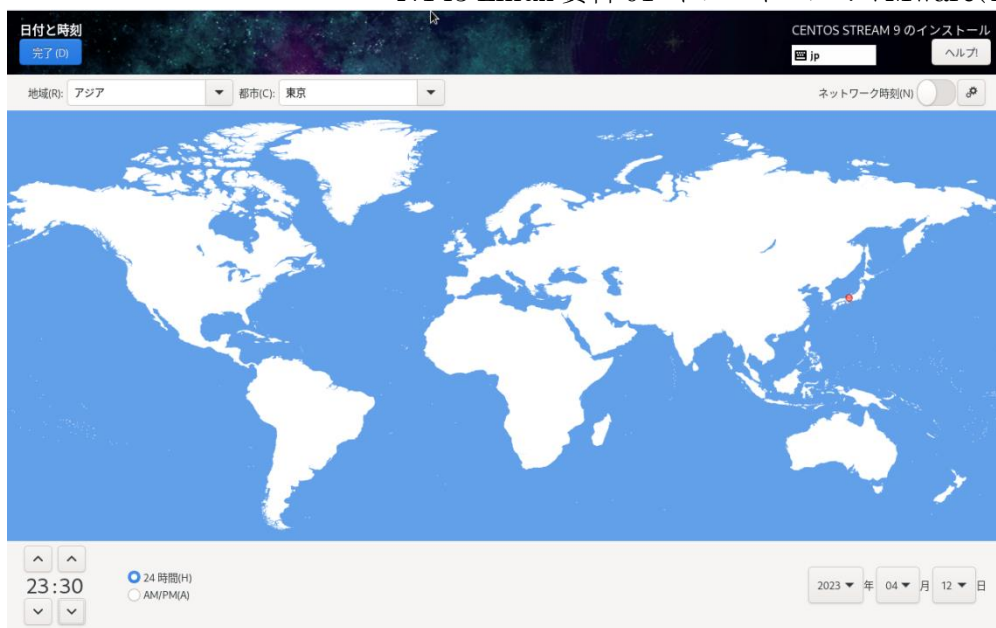


※[完了]を選択

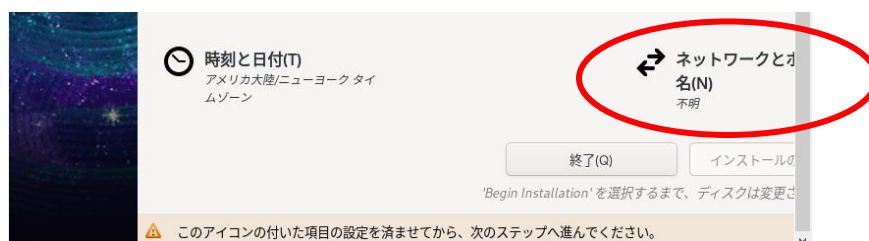


※[時刻と日付]を選択

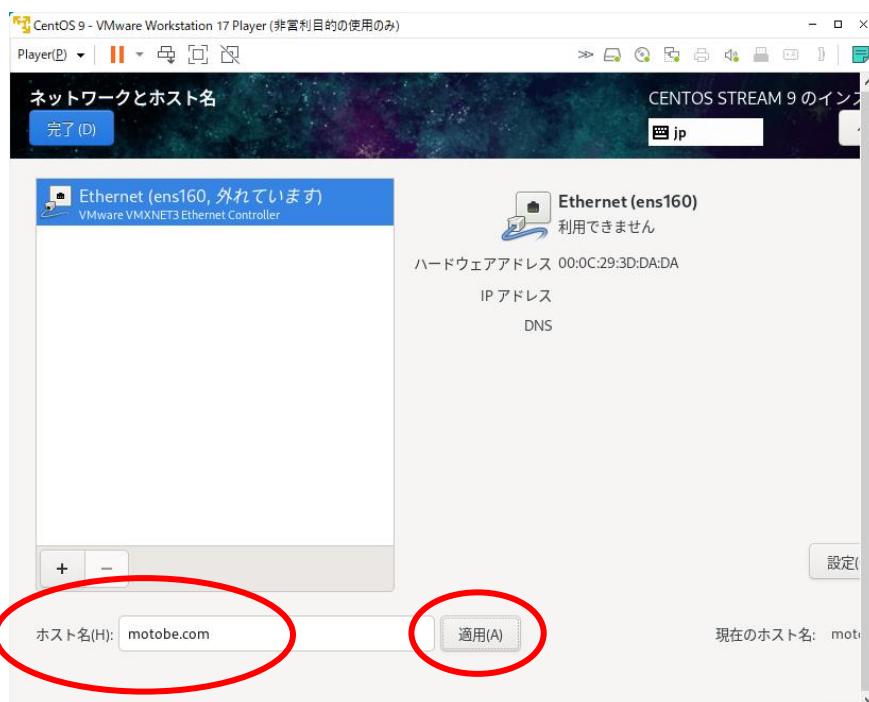




※地域、都市、時間、日付 を設定



※[ ネットワークとホスト名 ] を選択

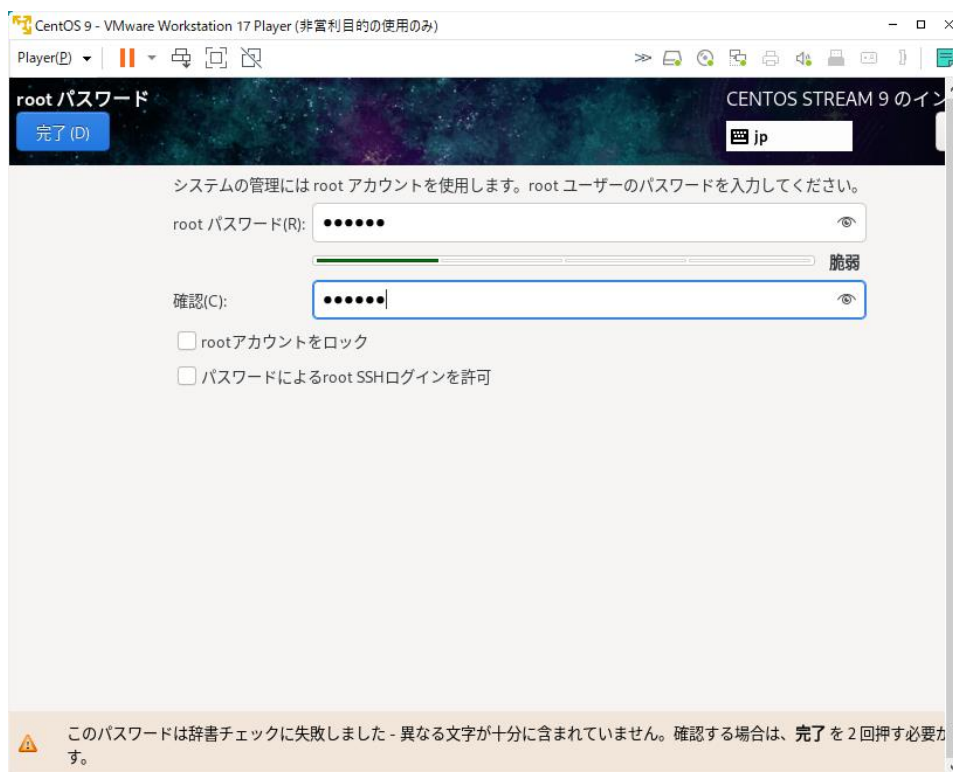


※[ホスト名] → [motobe.com] → [適用](忘れないように!) → [完了]

※ホスト名を「(自分の名前). com」(同じ名前の方は相談して)に指定 ←重要！

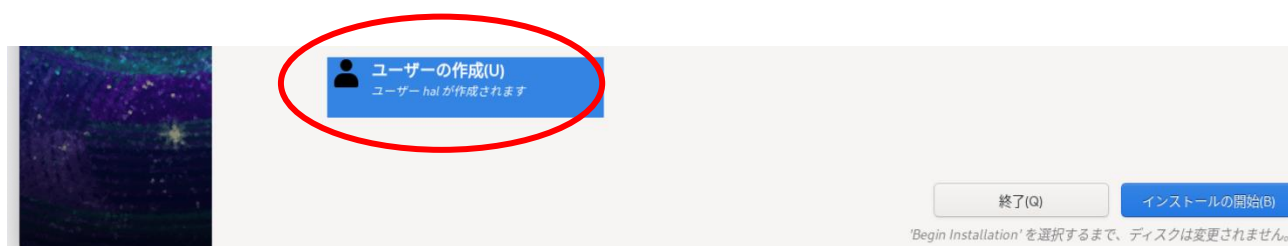


※[ root パスワード ] を選択



※パスワードを「**halhal**」にすること！ ←先生がメンテナンス出来るように今回は指定します

※上記の様にパスワードが弱すぎるとエラーが出ますがもう一度 [完了]



※[ ユーザーの作成 ] を選択

★★もし、「ユーザー作成」が無い方は後でも作成できますので [\[インストールの開始\]をクリック\(P19 参照\)](#)

ユーザーの作成

完了 (Q)

CENTOS STREAM 9 のインストール

jp ヘルプ

フルネーム(F) hal

ユーザー名(U) hal

☐ このユーザーを管理者にする(M)

☒ このアカウントを使用する場合にパスワードを必要とする(R)

パスワード(P) ●●●●●●

パスワードの確認(C) ●●●●●●

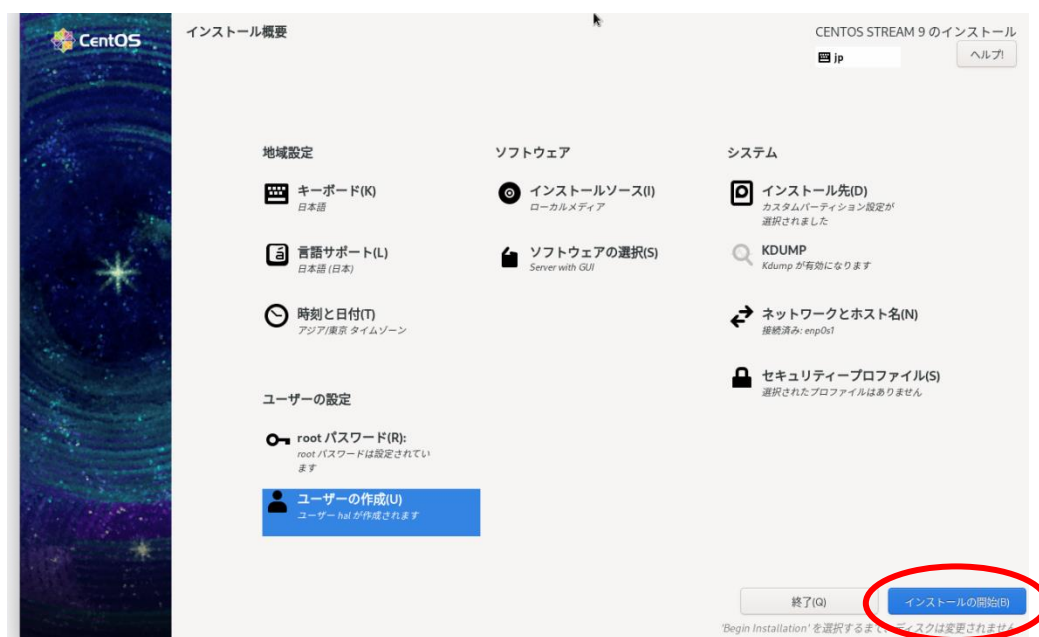
高度(A)...

このパスワードは辞書チェックに失敗しました - 異なる文字が十分に含まれていません。確認の場合は、完了を2回押す必要があります。

※フルネーム「**hal**」 ←自分の名前のユーザーは後で作成します

※パスワードを「**halhal**」にすること！

※上記の様にパスワードが弱すぎるとエラーが出ますがもう一度 [完了]



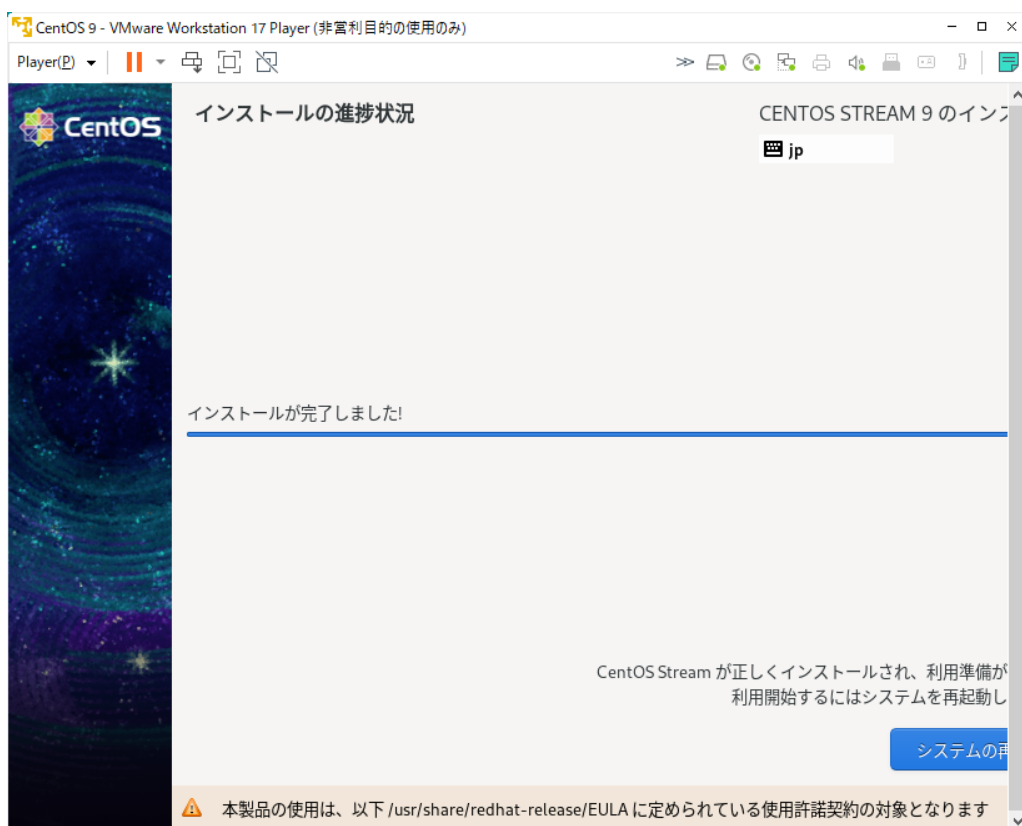
※[ インストールの開始 ] を選択

※セキュリティープロファイルの設定はしません



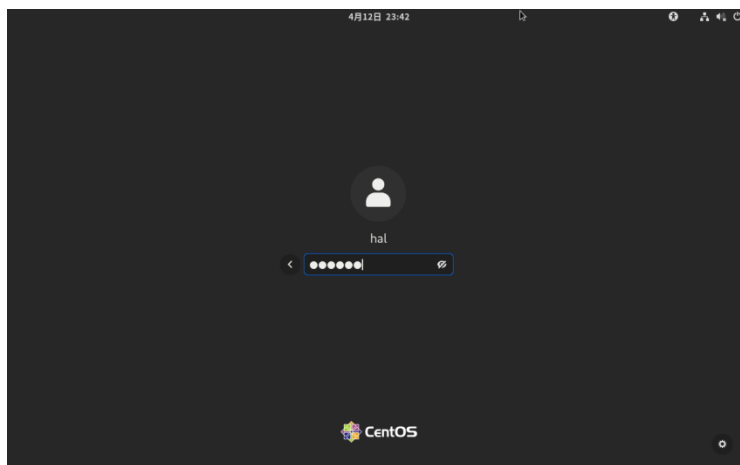


※マシンスペックによってはかなり時間がかかりますので、気長に待ってください。

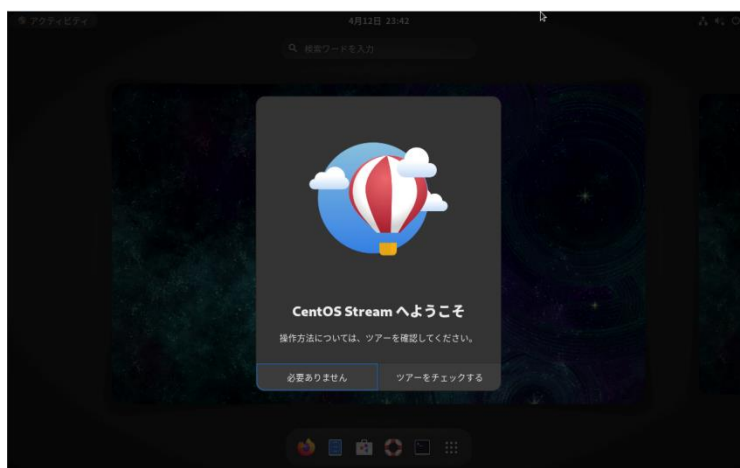


※システムの再起動

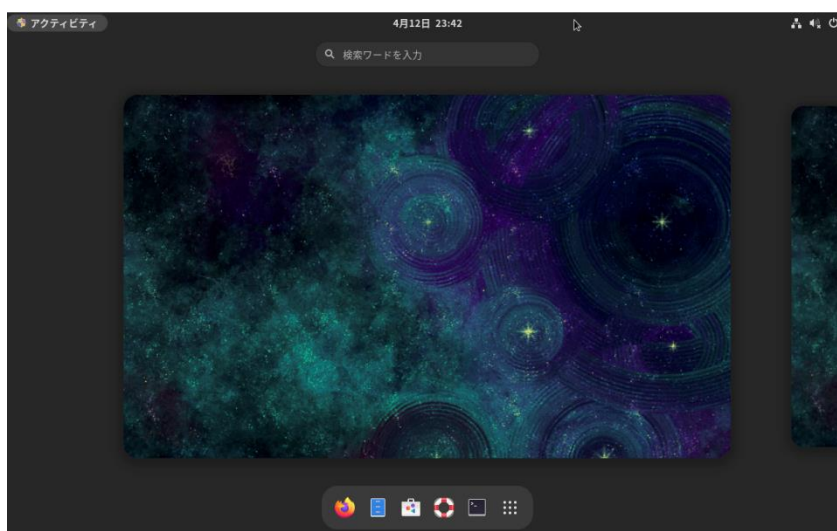
## ●Linux へのログイン！



※ユーザ **hal** のパスワード **[halhal]** の入力



※「ツアーをチェック」はお好きにどうぞ



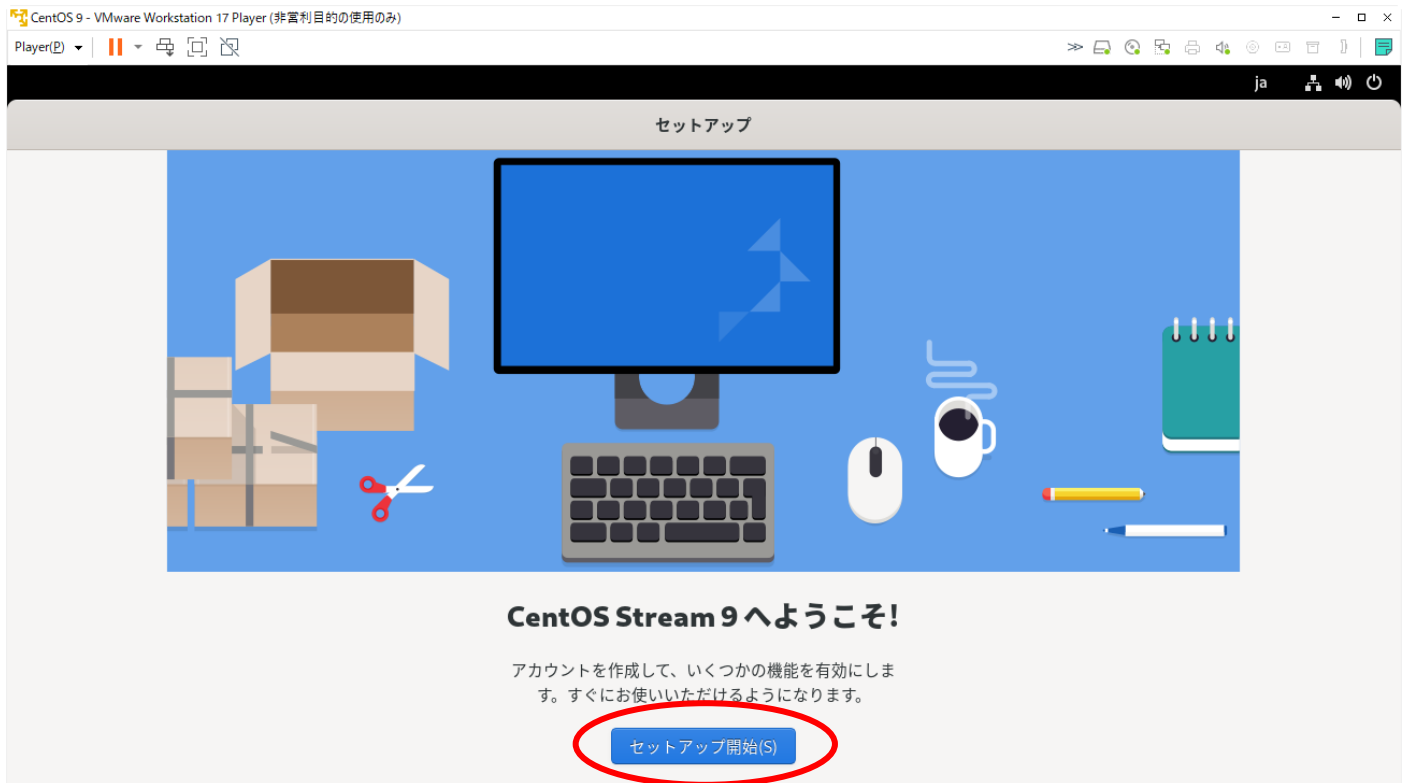
※ログイン完了！

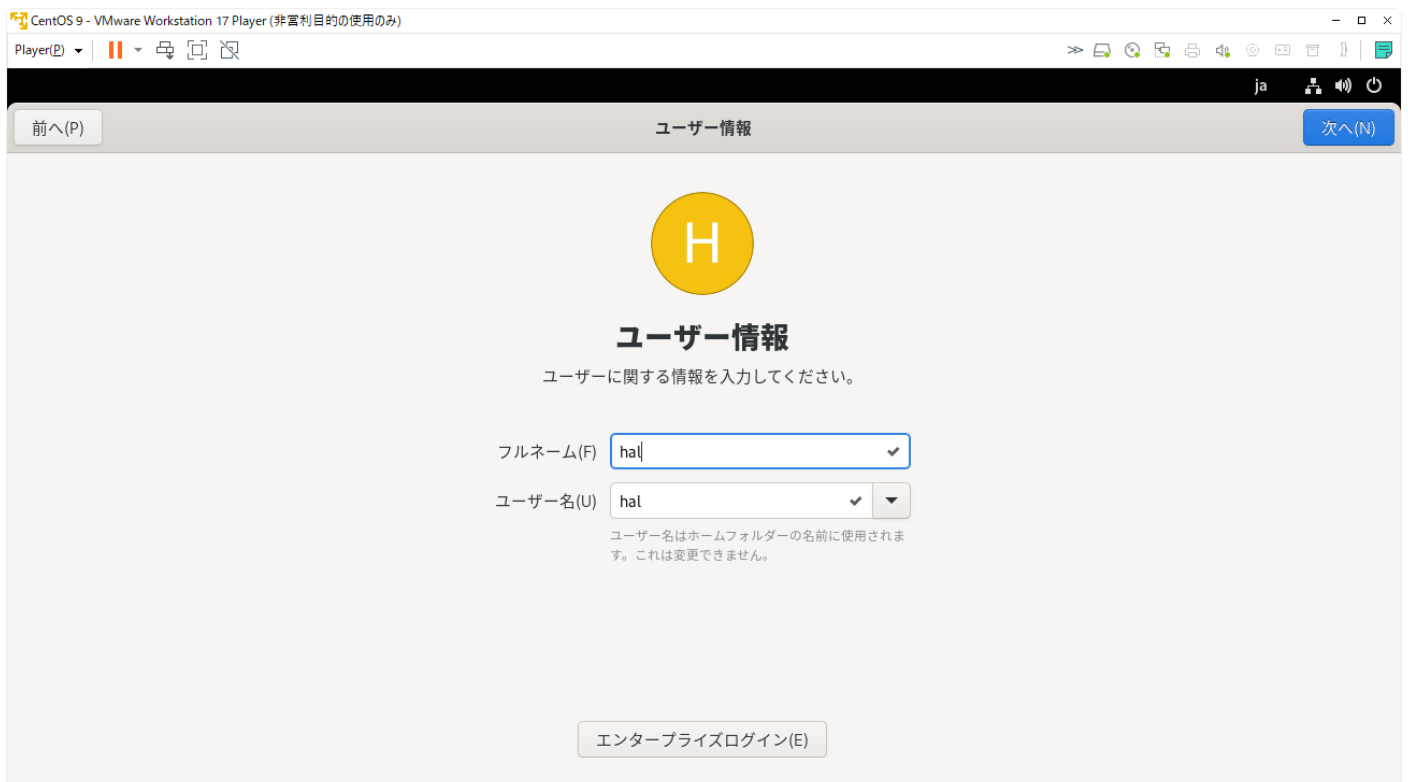
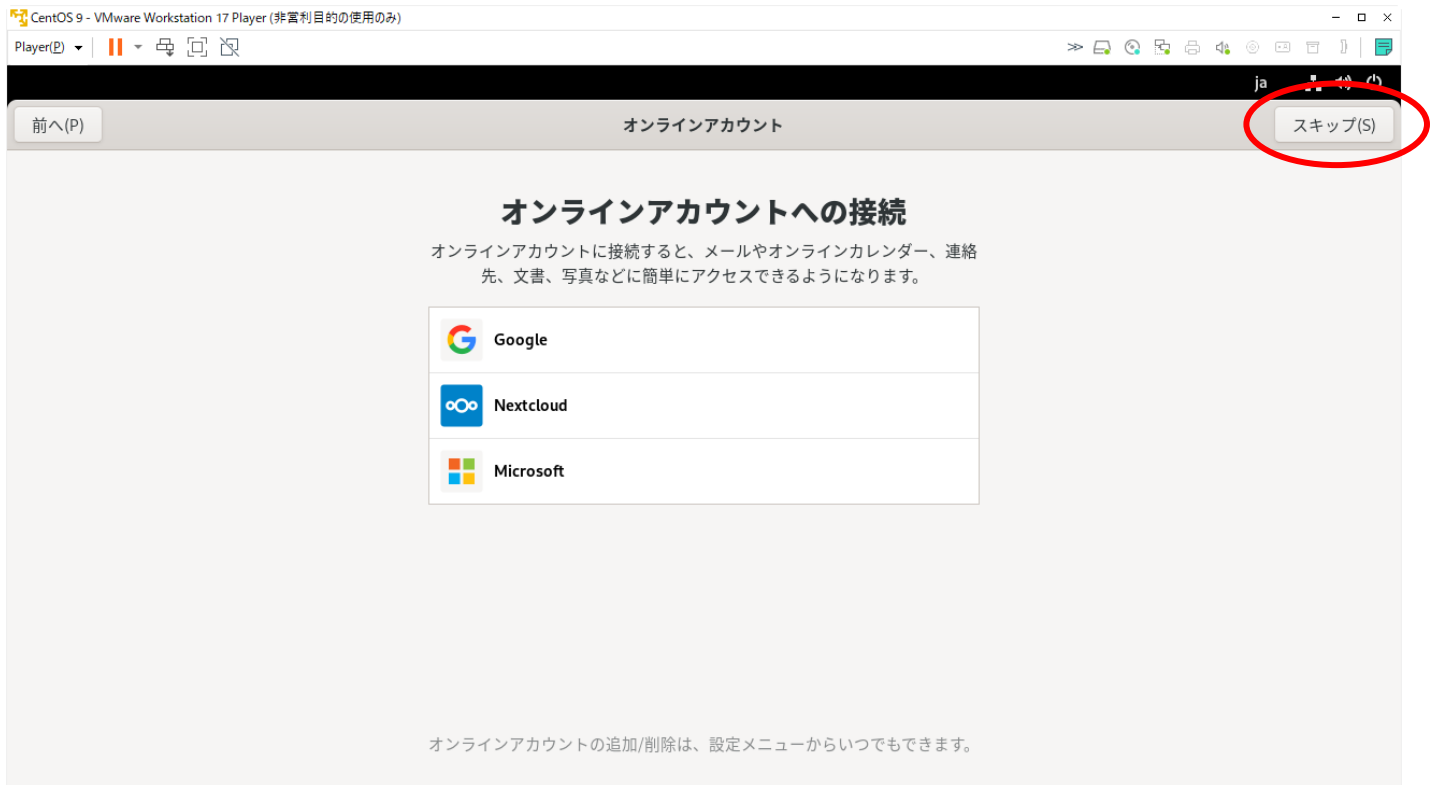
※**hal** ユーザが出来ている方は →P22

ユーザ作成が出来ていない方は →次のページ

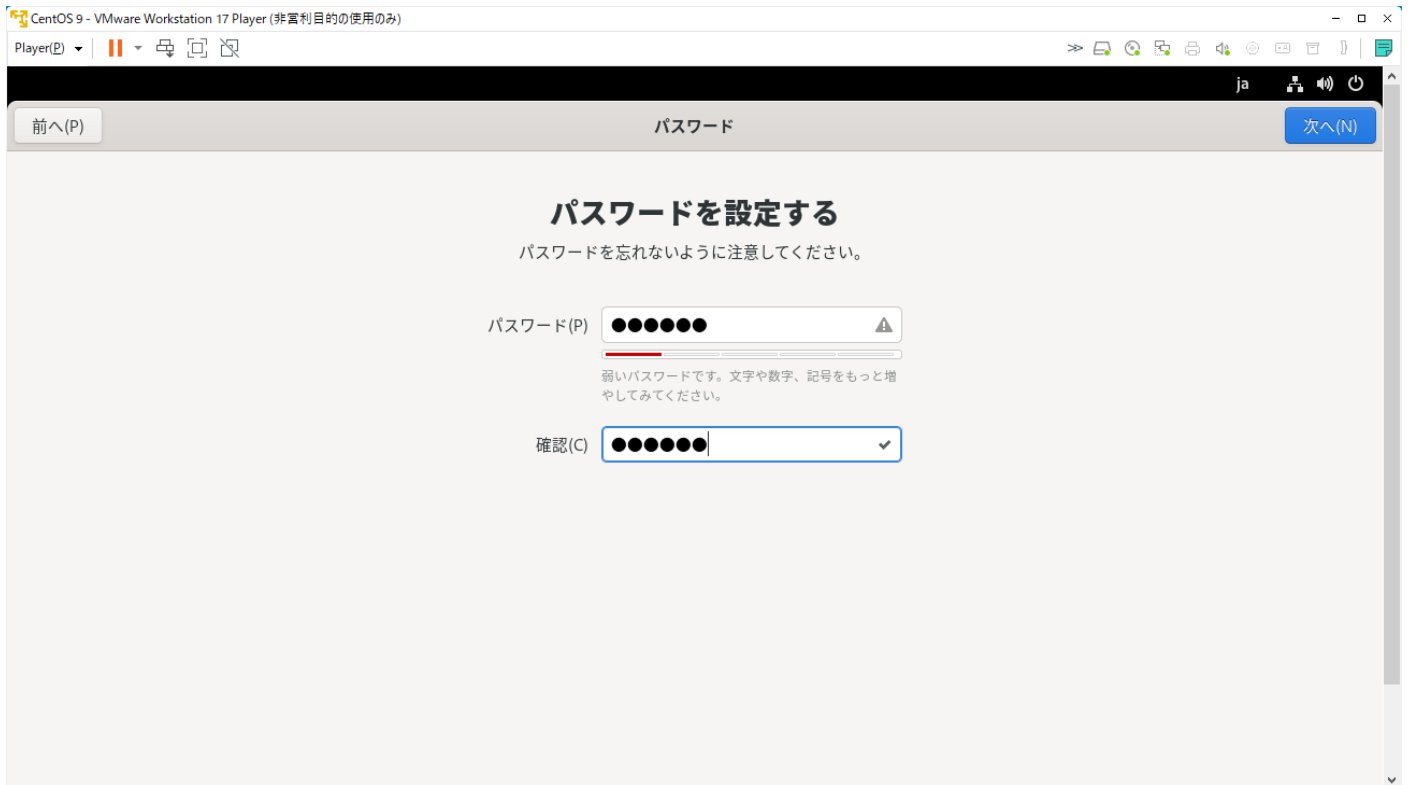
★★注意★★

ユーザー **hal** を作成していない方は再起動すると作成画面が出ますのでそこで作成して下さい。

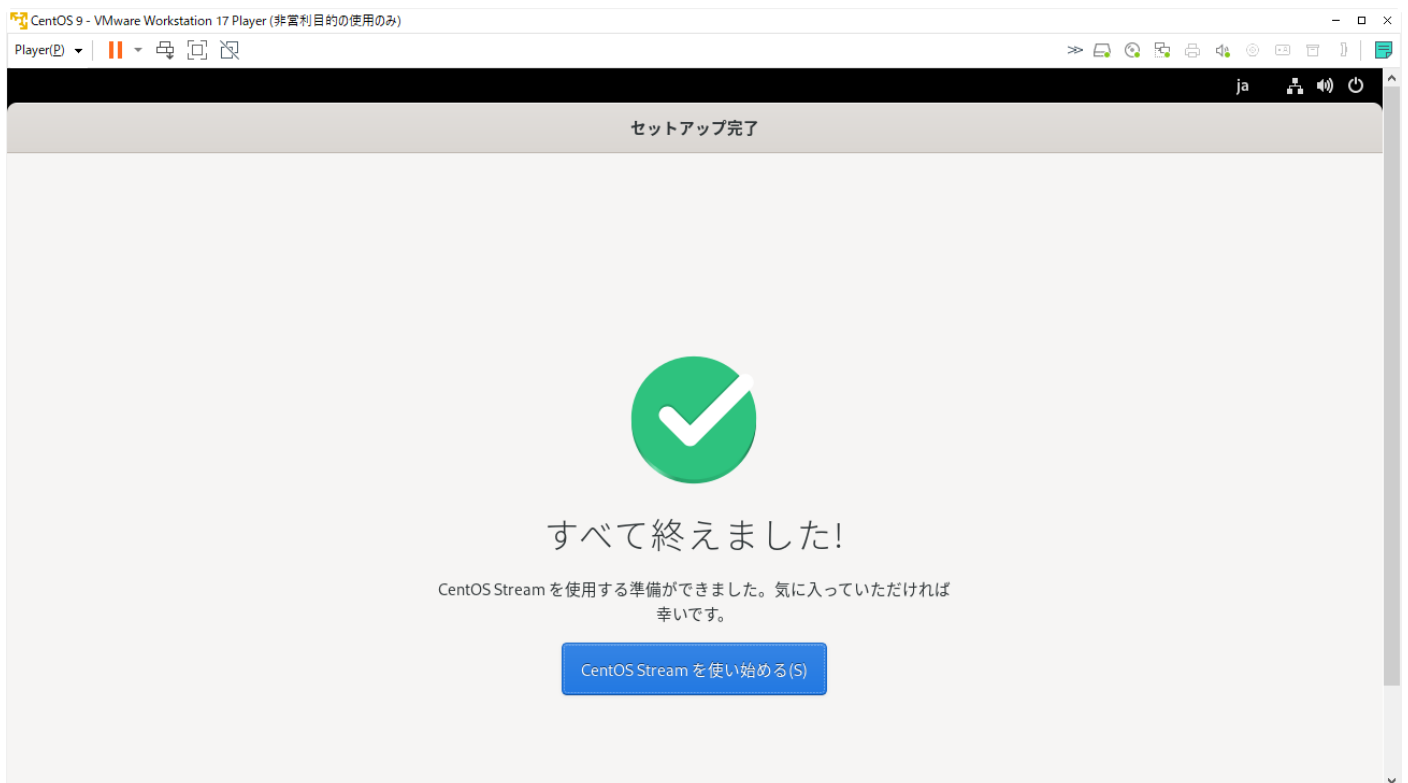




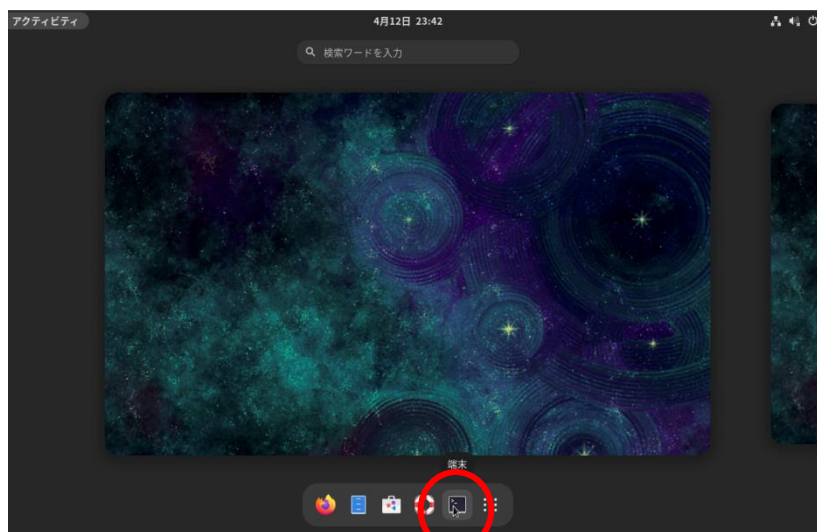
インストール時に作成できなかったユーザ「hal」の作成



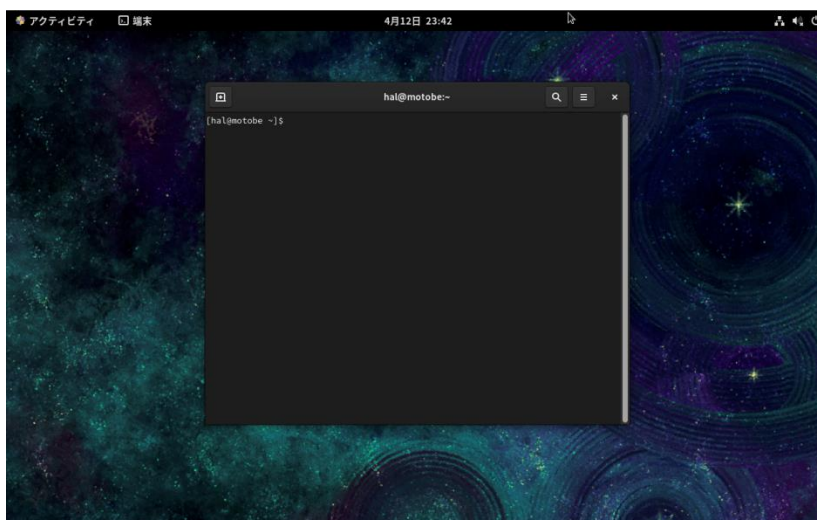
パスワード : halhal ←パスワードが簡単と警告が出ていますがそのまま



## ●Linux の使い方



※デスクトップ真ん中 → [端末]を選択



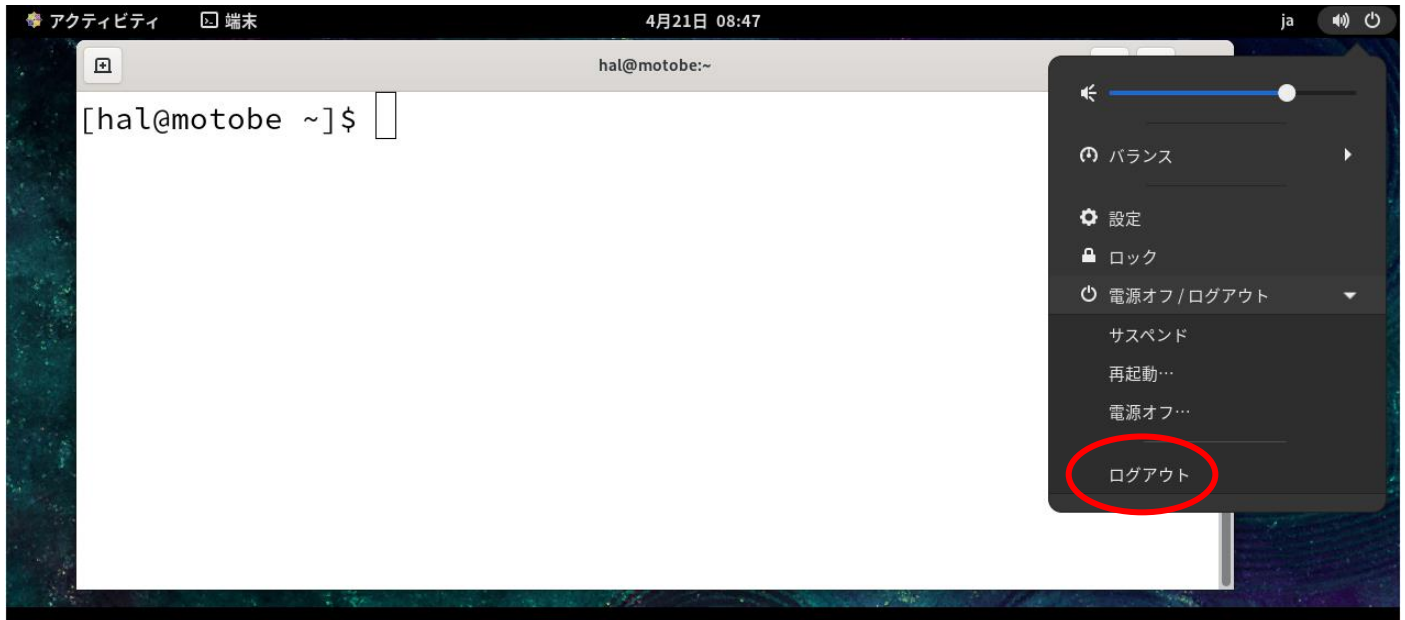
※今後はこの端末を使用して授業を行います！

## ●デスクトップの変更

デフォルトの設定でも良いのですが私的には「クラシック」の方が慣れているので・・・

デスクトップをクラシック版に変更します ←これは任意、どちらでも良い

右上[メニュー] → [電源オフ/ログアウト] →[ログアウト]



デスクトップを変更したいユーザを選択 → 右下の[設定]をクリック



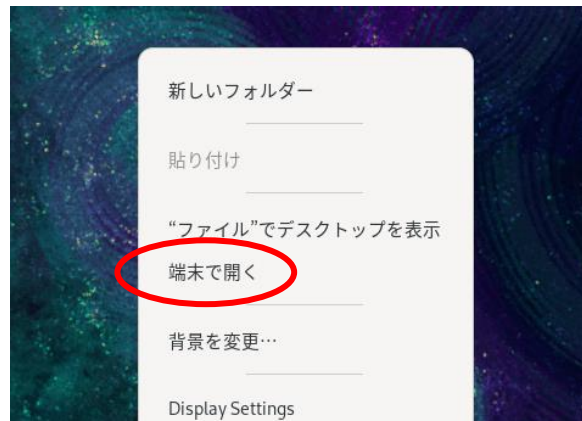


[GNOME クラシック]を選択

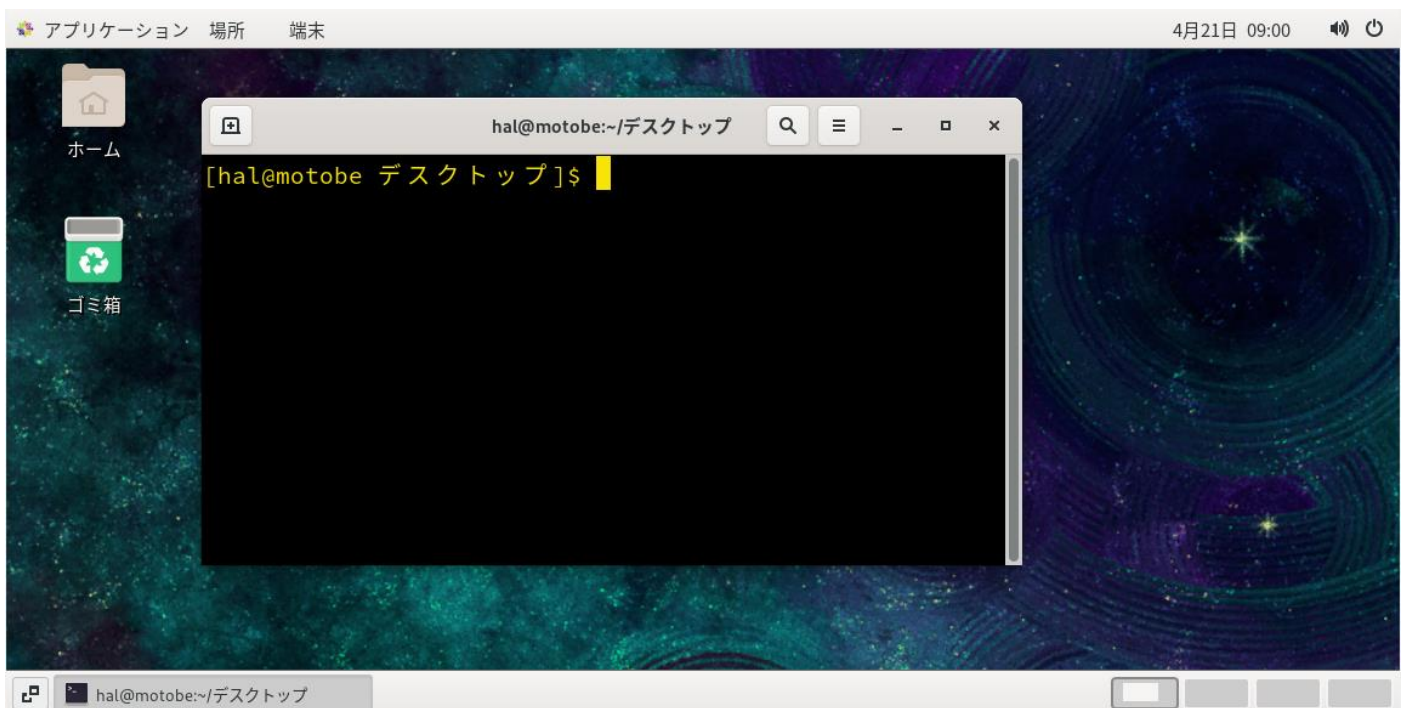


初めて方には関係ありませんが、私的には以前から馴染のあるデスクトップになって安心♪





デスクトップの何も無い所 → 右クリック → [端末で開く]

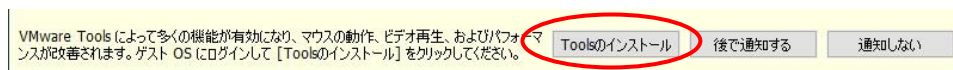


私はこのクラシック版でいきます

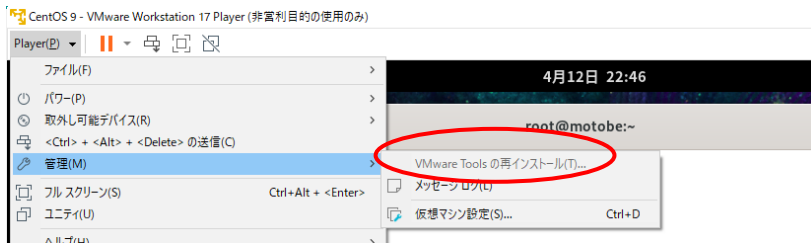
## ●インストール後の設定

### (1)VMware Tools のインストール

作業中に以下のメニューが出たら ←どこかのタイミングで必ずインストールしておいてください

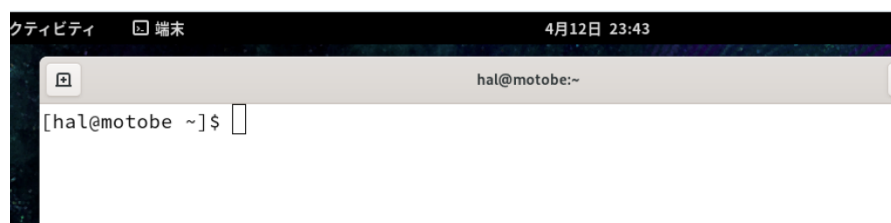
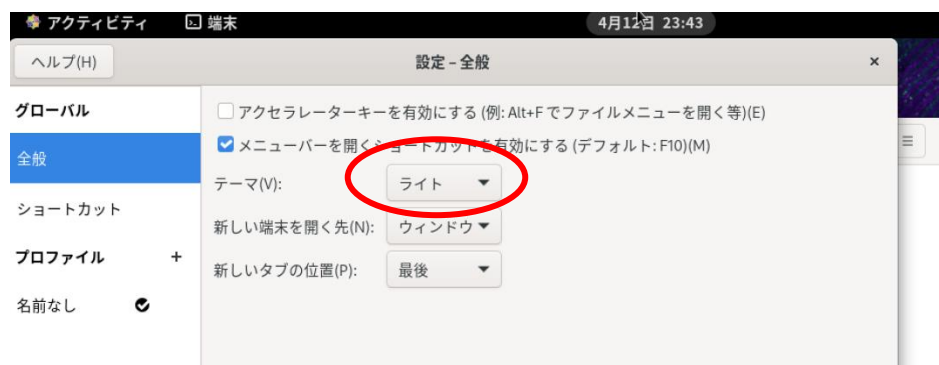


※バックグラウンド処理でインストールされている時は表示が出ません。



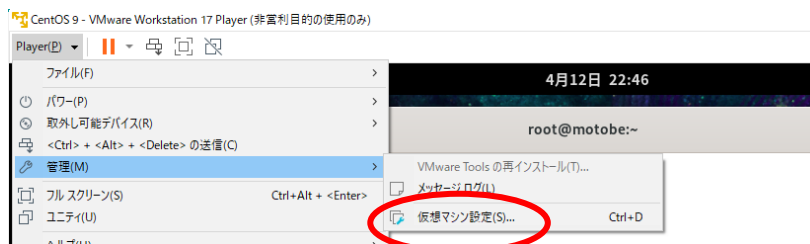
※上記の様に「VMware Tools の再インストール」とあれば既にインストールされています。

(2)端末が暗くて見にくい時は

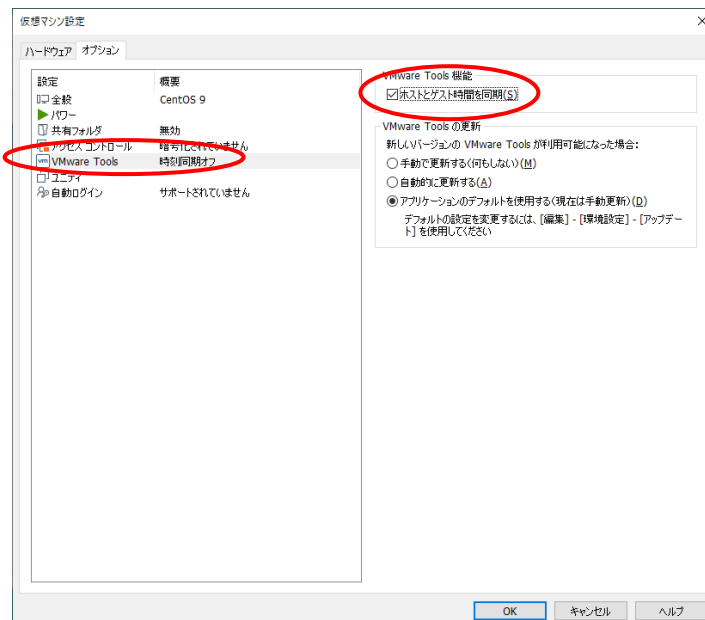


※明るくなりました！

## (3)時刻の同期



※VMware のメニュー → [管理] → [仮想マシン設定] → [ホストとゲスト時間を同期]

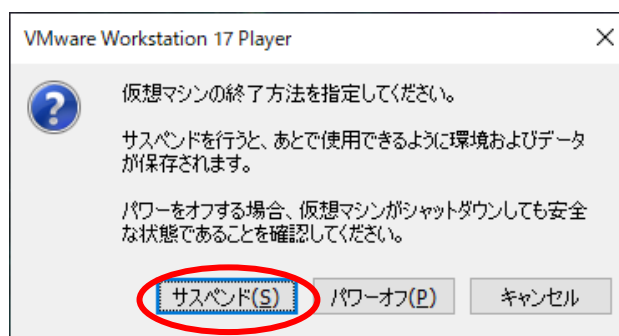


※これで Windows の時間と同期します

## ●授業終了時

VMware を終了するときは[サスペンド]で構いません。

※サスペンドは現状維持のまま保存してくれます。



以上！  
お疲れ様！